

県指定 天然記念物

城八幡社の自然林



城八幡は周囲1.5km、標高57mの丘陵で、この丘の南・西斜面は堅田郷八幡社の社叢としてよく保存され、皆伐されたことがないといわれている。自然林が残っているのは南と西斜面の約1.8ヘクタールで、この城八幡社の自然林の範囲は、社叢全体が県の天然記念物に指定された後、ハナガガシの生育する西側斜面が国指定天然記念物「堅田郷八幡社のハナガガシ林」となったため、残りの南斜面とその尾根となっている。コジイを中心にした自然林は、直径1メートル前後のコジイ・ハナガガシ・クスノキ・コバンモチ等が繁っていて、亜高木層、低木層、草本層の発達もよく、植物生態学的にはコジイクロバイ群集に属する。また、尾根にはムヨウラン、マツバランなど貴重な植物が生育し、林内にはナギランなど県内ではごく稀な植物も見られる。全体的にはハナガガシ林を保護するため、周辺のコジイ林は大切な働きをしている。